

アースウォッチ・ジャパン
調査プログラム解説書 2024

種子島のアカウミガメ保全

松沢 慶将

日本ウミガメ協議会会長/四国水族館館長



チーム 1 6月14日(金)～6月16日(日)

チーム 2 6月16日(日)～6月18日(火)

チーム 3 6月21日(金)～6月23日(日)

チーム 4 6月23日(日)～6月25日(火)

募集人数：各 12 名

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科 フードサイエンス棟

Tel. 03-3830-0688 Fax 03-3830-0061

e-mail: info@earthwatch.jp URL: <https://www.earthwatch.jp>

目次

1. アースウォッチ・ジャパンからのメッセージ	3
2. 支援企業からのメッセージ	3
3. 主任研究者からのメッセージ	3
4. 集合・解散時刻及び場所、交通案内	4
5. 宿泊、食事等	5
6. 装備について	5
7. スケジュール	6
8. 調査地について	7
9. 調査の目的・意義	7
10. 活動方法とボランティアの作業	8
11. 研究成果の応用	9
12. 安全確保の為の予定変更について	9
13. 医療機関	9
14. 調査中の危険や留意点について	9
15. 傷害保険	9
16. 研究者の紹介	10
17. 参考書籍、文献、用語の説明など	10
18. ご協力をお願い	11
19. 情報の取り扱いについて	11

情報の取り扱いについて

- ・ この調査プログラムから得られる経験や知識、写真、動画などは、参加者の家族や友人、ローカルメディア、フォーラム等で共有することはできません。（もちろん肖像権などには十分なお配慮をお願いします）
- ・ しかし、調査の間に収集・共有された全ての情報、特に科学的データやレクチャー時に研究者が使用したスライドなどは、研究者の知的財産となることをご理解ください。
- ・ 論文への使用や自らの利益、第三者の学問やビジネスへの使用のために、主任研究者の許可なしに、これらの情報を盗用・公開することを禁止します。
特に調査現地の人たちに取材したデータや、フィールドで収集した科学的なデータは、主任研究者の知的財産となることを理解し、その扱いには厳重に注意をしてください。
- ・ 主任研究者は、科学的なデータや特定の研究に関連した情報を共有することに対して制限を加える権利を持っています。もし参加者が学術上有益なデータやその関連情報を使用・公開する場合は、必ず書面で許可を得るか、アースウォッチを通して主任研究者に確認してください。
- ・ **希少生物の捕獲を防止するために、撮影した写真を公開する場合には GPS による位置情報を削除するほか、撮影場所が分かるような情報は公開しないなどのご配慮をお願いします。**
- ・ アースウォッチは、調査プログラムに関連して撮影した写真及び提供いただいた写真の利用についての権限を有しています。

1. アースウォッチ・ジャパンからのメッセージ

世界各地の海で、熱帯雨林で、草原で、数多くの研究者が長く、そして地道な調査に取り組んでいます。アースウォッチは、このようなフィールドと一般市民をつなぐことによって、自然環境やそこに生息する生物の変化に対する認識や理解を深め、持続可能な環境を維持するための行動に結びつけるために生まれました。

この「種子島のアカウミガメ保全」調査は、絶滅が危惧されているアカウミガメの生態を明らかにする活動への参加を通じて、海洋保全の一端を学んでいただくプログラムです。

短い期間ではありますが、この調査を通して、自然の多様なつながりや自然と人との関わりについて実地で学び、そこで得た体験を多くの方と共有していただければ幸いです。

認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン

2. 支援企業からのメッセージ

今回の調査の舞台となる種子島には、日本最大のロケット発射場「種子島宇宙センター」があります。三菱重工は1975年にここから打上げられたN-1ロケットの開発・製造に参画して以来、各種ロケットの打上げをこの発射場で行っており、種子島は弊社の宇宙事業にとって深い関わりのある場所です。

一方で、この発射場は、青い海と白い砂浜に囲まれていることから「世界一美しいロケット発射場」と呼ばれており、その自然を種子島の様々な生物と共有しています。弊社はこの島の海岸が、今回調査するアカウミガメの貴重な産卵場所となっていること、またそのアカウミガメが絶滅の危機にあることを知り、アカウミガメの調査保全活動の必要性を強く感じました。

生物多様性の保全の必要性は、組織の社会的責任に関する国際的なガイドラインISO26000や国連SDGs（持続可能な開発目標）でも提示されております。また、三菱重工グループの掲げるCSR 行動指針「地球との絆、社会との絆、次世代への架け橋」とも結び付きます。

これらの観点から、三菱重工グループは、2015年よりアースウォッチ・ジャパンの主催する本調査の趣旨に賛同し、調査に係る費用面での支援と社員ボランティアの派遣を行うことといたしました。

本年も、アースウォッチ・ジャパン、研究者の先生方、そしてボランティアとしてご参加いただく皆さまと協力して、本調査が生物多様性の保全において意義あるものとなるよう支援を継続してまいります。

三菱重工業株式会社
サステナビリティ推進室

3. 主任研究者からのメッセージ



種子島はアカウミガメが多く産卵に訪れる場所の一つです。この地で、絶滅が危惧されているアカウミガメの生態を明らかにするお手伝いをお願いします。

国内の主要なアカウミガメの産卵地では、長年にわたり、研究者や保護団体によって、産卵個体に標識を装着して個体識別する調査が継続されてきました。その結果、数年後に同じ砂浜を訪れて産卵するものは、全体の約3割に過ぎないことや、その一方で、他の産卵地で見つかる例はほとんどないことが明らかになってきました。このことは、産卵後のメスの生残率が著しく低いか、そうでなければ、数年後に再び繁殖するときに、既に標識が脱落してしまっているか、前回とは別の、

個体識別調査が行われていない砂浜に産卵地を変更してしまっているかということを意味します。いずれにしても、従来の定説を大きく覆すことになるうえ、本種の保全と生態を考える上で、重要な知見となります。

そこで、本研究では、種子島において、産卵地を夜間踏査し、産卵個体を対象に通常タイプの標識と体内埋め込み型の標識を用いた個体識別調査を実施することで、通常タイプの標識の脱落率、他の産卵地で標識を装着された個体の移入率、および種子島で産卵したメスの回帰率について明らかにします。

日本ウミガメ協議会会長
四国水族館館長
松沢 慶将

4. 集合・解散時刻及び場所、交通案内

集合：種子島西之表港高速船下船場

チーム 1	6月14日(金)	14時40分	高速船 127 便 (鹿児島 13:00->種子島 14:35)
チーム 2	6月16日(日)	14時40分	高速船 127 便 (鹿児島 13:00->種子島 14:35)
チーム 3	6月21日(金)	14時40分	高速船 127 便 (鹿児島 13:00->種子島 14:35)
チーム 4	6月23日(日)	14時40分	高速船 127 便 (鹿児島 13:00->種子島 14:35)

※集合時の連絡用に、携帯電話番号は必ず事務局までご連絡ください。

※参加者には、当日の緊急連絡先を記入した調査プログラム解説書を別途お送り致します。

解散：日程により解散場所が異なります。ご注意ください。

チーム 1	6月16日(日)	13時30分	西之表港乗船場	高速船 128 便 (種子島 14:15->鹿児島 15:55)
チーム 2	6月18日(火)	15時30分	種子島空港ロビー	JAL3768 便 (種子島 16:30->鹿児島 17:05)
チーム 3	6月23日(日)	13時30分	西之表港乗船場	高速船 128 便 (種子島 14:15->鹿児島 15:55)
チーム 4	6月25日(火)	15時30分	種子島空港ロビー	JAL3768 便 (種子島 16:30->鹿児島 17:05)

交通案内：情報は必ず、ご自身で確認してください。

鹿児島空港から高速船ターミナルへ移動する場合

鹿児島空港バスをご利用ください。(以下の3便が高速船ターミナルまで行きますが、前後の便を利用の場合は、天文館・市役所前からターミナルまで移動(徒歩20分弱)が必要となります。)

鹿児島空港10:45発→高速船ターミナル11:37着

鹿児島空港11:00発→高速船ターミナル11:52着

鹿児島空港11:10発→高速船ターミナル12:02着

高速船 トッピー&ロケット127便 鹿児島港13:00発→種子島西之表港14:35着
(乗船手続きは出港の20分前までに済ませてください。)

鹿児島空港連絡バス(運賃は片道1400円) <http://nangoku-kotsu.com/ashuttle>
時刻表 https://nangoku-kotsu.com/wp-content/uploads/pdf/corona_airport0331.pdf

JR 鹿児島中央駅から高速船ターミナルへ移動する場合

JR鹿児島中央駅前からは路線バスで約20分です。タクシーをご利用の場合は、約15分です。

高速船情報

<http://www.tykousoku.jp>

高速船「トッピー&ロケット」の運賃は片道10,300円、往復割引18,800円です。

近年、種子島への出入りが混雑しているようですので、余裕を持って事前予約をしてください。
予約は2ヶ月前前から可能です。

トッピー&ロケット Web予約 <https://www.tykousoku.jp/reserve/>
予約センター 0570-004015

復路で鹿児島港高速船下船後、鹿児島空港へ移動する場合

鹿児島空港バスをご利用ください。

高速船ターミナル16:05発→鹿児島空港17:05着

高速船ターミナル16:25発→鹿児島空港17:25着

種子島へ空路移動を予定されている方へ

鹿児島11:05発 →種子島11:45着 JAL3763便を利用可能ですが、種子島空港から西之表港までは、タクシーで移動していただくことになります。その場合、約30分程度かかります。**空港と港等主要箇所を結ぶバス路線は2024年3月末を以て廃止となりました。**

なお、天候や種子島空港の視界不良等により、搭乗便が欠航になったり、条件付き運行となる場合があります。これまでの調査で毎年1回から2回程度はそのような状況に遭遇しました。鹿児島から飛行機を利用する予定の方は、ご注意ください。欠航の場合は、鹿児島港から高速船（トッピー&ロケット）を利用いただくことになりますが、JAL3763便ご利用予定で欠航になった場合は、13:00発の高速船には乗船できない可能性があります。その場合、次の便鹿児島15:45発→種子島西之表港17:20着となり、西之表港から宿がある南種子町まで、タクシーで移動（1時間程度かかります）していただくことになります。航空便で種子島入りを予定される方は、その点も合わせてご検討ください。

5. 宿泊、食事等

宿泊施設：チーム1~4

施設名	ホテルサンダルウッド
住所	〒891-3701 鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 525
	TEL：0997-26-0015
	URL： http://www.hotel-sandalwood.com

※ 男女に分かれての相部屋となります。2名から3名で一部屋をご利用いただく場合もありますことを、予めご了承ください。

食事等：メニューはすべてプリフィクスです。飲み物は各自でご負担いただきます。朝食はつきませんので、朝食や夜食が必要な方、また特別食が必要な方は、持参いただくか、集合後の移動の途中で買い物ができます。お部屋には給湯ポットがあります。

全チーム	1日目	夕食（宿）	飲み物は各自負担
	2日目	昼食（宿）	
		夕食（宿）	
	3日目	昼食（宿）	

6. 装備について

必携品

	本プログラム解説書と筆記用具
	沢タビ、ダイビングブーツ等 浜辺を長距離（片道約4Kmを往復）歩きます。ところどころ、海に向かって川が流れており、歩いて渡りますので、くるぶしまで覆える沢タビ、ダイビングブーツ等が必要です。水位が膝下位まである所もあり、長靴では浸水して歩きにくくなることもあります。
	長袖・長ズボン（夜間の冷え対策と虫除け）、ジャージやラッシュガード等 夜間の調査時は冷え込むことがあります。また、ガジャブ（ブユ）と呼ばれる吸血性の小さな虫がたくさん飛んでいることがあり、刺されると非常に痒く、腫れる場合がありますので、長袖・長ズボンが適切です。 また、ガジャブ対策に、ハッカ油スプレーまたは虫除けスプレーを用意しておくといいでしょう。
	雨具（カッパ上下） 調査は、雨天でも実施しますので、雨具は必須です。傘の使用は、雨音によりウミガメを驚かすことになるため、禁止です。

	小型のデイバッグ 浜辺を歩く際は、両手を開けておく必要がありますので、携行品を入れて背負えるデイバッグなどを用意してください。調査器具を分担して持ち運びいただくこともあります。防水加工のあるものが望ましいです。あるいは、急な雨でも中のものが濡れない様にデイバッグの中にジップロック等で防水すると良いでしょう。
	サンダル 車で移動中の履き替え用としてご用意されると良いでしょう。
	懐中電灯又はペンライト(赤色) ウミガメへの影響を最小限にするため、赤色フィルム（研究者が準備します）を貼って使用していただきます。明るすぎないものをご用意ください。また、落下や紛失防止の工夫をしてください。駐車場から調査地へ移動する際に懐中電灯を使用できますが、ウミガメは光を忌避するため、調査中は、作業と記録のため以外には、原則的にライトは使用できません。標識番号の確認、標識の装着、甲長の計測、およびその記録に、ペンライトが必要になります。移動中にヘッドランプは使用しないでください。ヘッドランプを持参する場合は、手持ちにして、光が周囲に拡散しないよう気をつけてご利用ください。
	飲み物 長時間歩きますので必ず持参してください。ペットボトル飲料は、宿の自販機やコンビニ等でも購入可能です。
	タオル 湿度が高いため、ご用意されると良いでしょう。
	着替え一式
	健康保険証

【宿泊施設の客室備品（参考）】要確認

シャンプー、リンス、ボディーシャンプー、ドライヤー、歯ブラシ、タオル、パジャマ

あると便利なもの

	軍手 ウミガメに触ることがあります。
	ウェットティッシュ
	医薬品 (虫刺され薬・絆創膏・胃腸薬等)
	帽子とサングラス (日中の浜辺歩き用)
	水筒
	カメラ(夜間調査時は使用不可) 調査中は、カメラのフラッシュは使用できません。また、常時、歩いていることが多いため、三脚などを使用した長時間露光での撮影も調査中はできません。宿の近くで星空を撮影することは可能です。
	ポータブルトイレと紙、密閉袋 夜間の浜辺の調査は4時間以上かかる場合がありますが、トイレはありません。緊急の場合は、自然の中で行わなければなりませんので、必要と思われる方はご用意ください。

◇携帯電話に関する注意

携帯電話は、夜間調査時はマナーモードにし、輝度もできるだけ押さえてください。

ウミガメは光に敏感です。どうしても画面を見なければいけない場合は、なるべく光が漏れない様工夫してください。

7. スケジュール

*参加者には、オンラインによる事前説明会を6月6日(木)19:00から予定しています。詳細は追ってご案内します。

◇主なスケジュール

1日目 種子島西之表港集合後、調査地の下見、夕食・レクチャーの後、浜辺で調査

2 日目 午前中フリー、昼食後種子島宇宙センター見学（チーム 2&4 については 3 日目に実施）、レクチャー・夕食の後、浜辺で調査

3 日目 調査のまとめと質疑応答の後、西之表港（チーム 1&3）、または、種子島空港（チーム 2&4）にて解散

※参加者には、当日の詳細スケジュールを記載した調査プログラム解説書を別途お送り致します。

8. 調査地について

鹿児島県大隅諸島の一つである種子島は鉄砲伝来の地として有名です。南北に細長い形をした緑豊かな島の東南端の海岸線には種子島宇宙センターがあります。また、良好なサーフィンスポットがたくさんあり、多くのサーファーが訪れる場所であり、他のマリンスポーツも盛んに行われています。調査地の長浜は島の西側に位置する全長約 12Km の砂浜です。



9. 調査の目的・意義

本研究で対象とするアカウミガメ (*Caretta caretta*) は、世界中の温帯・亜熱帯域に生息する海棲爬虫類で、国際自然保護連合版レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類に位置づけられ、世界的に絶滅が危惧されています。このうち、日本列島を唯一の産卵地としている北太平洋個体群も、20 世紀後半に産卵回数が大きく減ったことから、環境省による「日本版レッドデータブック」では絶滅危惧ⅠB 種に指定されています。

絶滅が危惧される本種北太平洋個体群を適切に保全するためには、その生態を様々な側面から解明し、脅威となっている要因を探り出すことが重要となります。これに関連して、今、特に注目すべきポイントの一つが、成熟したメスの生残率と産卵地の変更です。

屋久島や宮崎、徳島、和歌山などの産卵地では、長年にわたり、研究者と保護団体が、産卵個体に標識を装着して個体識別する調査を継続してきました。その結果、メスは一度の産卵期に、2～3 週間おきに同じ砂浜で数回繰り返し産卵することや、そのうち、数年後に同じ砂浜を訪れて産卵するものは、全体の約 3 割に過ぎないことや、その一方で、他の産卵地で見つかる例はほとんどないことが明らかになってきました。このことは、産卵後に多くのメスが死亡しているか、そうでなければ、数年後に再び繁殖するときに、既に標識が脱落してしまっているか、前回とは別の、個体識別調査が行われていない砂浜に産卵地を変更してしまっているかということを意味します。いずれにしても、従来の定説を大きく覆すことになるうえ、本種の保全と生態を考える上で、重要な知見となります。

そこで、本研究では、種子島において、産卵地を夜間踏査し、産卵個体を対象に通常の標識と体内挿入型の標識を用いた個体識別調査を実施することで、通常タイプの標識の脱落率、他の産卵地で標識を装着された個体の移入率、および種子島で産卵したメスの回帰率について明らかにします。種子島は、国

内で二番目に本種の産卵が多いことが知られているものの、これまで、産卵メスの個体識別調査はほとんど行われていませんでした。はたして、他の産卵地で標識を付けられたメスが、種子島で見つかるのでしょうか？

10. 活動方法とボランティアの作業

■活動方法

本プログラムで最終的に目指すのは、アカウミガメ北太平洋個体群における成熟後のメスの平均産卵回数です。これは、絶滅が危惧される本種の個体群動態を理解し、絶滅の危険度を評価していく上で欠くことができない情報です。

これを求めるために、他の砂浜における識別個体数や回帰率、回帰年数、砂浜ごとの産卵頻度、1頭1産卵期あたりの平均産卵回数などの既知の情報に、今回、あらたに種子島長浜海岸における個体識別調査により明らかにされる、通常タイプの標識の脱落率、他の産卵地で標識を装着された個体の移入率、種子島で産卵したメスの回帰率といったデータをあわせて、総合的に解析していきます。

個体識別調査では、島の西部に位置する長さ12キロメートルの長浜（3チーム）と南部の前之浜（1チーム）の計4チームに分かれて、砂浜を歩いて闇の中でウミガメを探します。発見次第、その行動を阻害しないように慎重に接近し、四肢に標識や体内埋め込み型の標識がないか確認します。標識がない場合には、新たに標識を装着します。また、専用のノギスを用いて、背甲の長さや幅を計測します。

■ボランティアの作業

- A) 班ごとに研究員やサポートスタッフと一緒に砂浜を歩き、闇の中で足跡を頼りにウミガメを探します。ウミガメは可視光に敏感なので赤外線暗視スコープも利用します。
- B) ウミガメを見つけたら、行動を阻害しないように注意しながら、慎重に接近し、四肢に標識や体内埋め込み型の標識を確認します（通常は産卵開始以降か海へ戻る直前です）。
- C) 標識がない場合には、産卵終了後か海へ戻る直前に新たに標識を装着します。
- D) 専用のノギスを用いて、背甲の長さや幅を計測します。暗闇で行われるこの一連の作業の中において、記録をつけたり、調査器具の準備をしたりします。
- E) また、野外調査終了後に研究拠点となる宿泊施設でデータのコンピュータへの入力整理などを必要に応じて行います。



装着されたタグ



背甲の測定をしている所



浜歩きには沢たび・ダイビングブーツをご用意ください



装備の一例



※調査の方法については事前にガイダンスを行います。ボランティアは、調査に関する知識や特別な技能はおりません。

11. 研究成果の応用

今回の調査・研究の最大の目的は、各地におけるアカウミガメのメスの回帰率の低さが、産卵地を変更する個体の多さか、死亡率の高さか、はたまた、標識の脱落の高さによるものなのかを明らかにすることです。ここで得られる成果は、国際自然保護連合のレッドリストにおいて、アカウミガメ北太平洋個体群の絶滅の危険度を評価する際に利用されます。さらに、現在、米国当局がメキシコと日本に協力を呼び掛けている、本種北太平洋個体群の包括的な保全政策を立案するうえでも、資源量推定に関する基礎資料としての利用が期待されます。また、研究の成果は科学論文として爬虫類学関係の国際誌に発表していきます。さらに、日本語での解説記事や書籍の執筆、国内外学会でのシンポジウムや市民参加型セミナーなどを通じて発信していきます。

12. 安全確保の為に予定変更について

◇やむを得ない事情による調査中止の場合など、実施に関する注意事項◇

調査は基本的に雨天でも行われます。しかし、台風や雷、集中豪雨など、調査地に入ることがボランティアにとって危険と研究者が判断した場合には、調査チームの安全確保のためやむを得ず野外調査を中止することがあります。その場合は、研究者の指示に従ってください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ・中止が予想される場合：台風や強雨などの影響で、調査が困難になると研究者が事前に判断できた場合は、中止や予定の変更を事務局からご連絡いたします。
- ・調査期間中の天候の急変について：天候の急変など、アースウォッチの管理できない事由により調査の安全確保が困難になると研究者が判断した場合、調査を早めに切り上げ、データ整理などの他の作業に切り替えることがあります。その場合は、研究者の指示に従ってください。
(そのほか、詳細は免責承諾書の記載事項もご参照ください。)

13. 医療機関

病 院	住 所	電 話	URL
公立種子島病院	鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 1700 番地 22	0997-26-1230	https://tanegashima-hospital.com
種子島医療センター	鹿児島県西之表市西之表 7463 番地	0997-22-0960	https://tanegashima-mc.jp

救急箱は用意致しますが、ご自分の必要な常備薬はご用意をお願いします。

14. 調査中の危険や留意点について

- ・ウミガメは光に敏感です。どうしても懐中電灯や携帯電話を使用しなければならない場合には、光が海側やウミガメに当たらないよう注意してください。
- ・夜の砂浜を歩いて調査を行います。砂が細かいため、ハードタイプのコンタクトレンズの使用は控えた方がよいでしょう。トイレはありません。緊急の場合は、自然の中で行わなければなりませんので、調査前にお済ませください。

15. 傷害保険

アースウォッチのボランティア活動中に万一発生する傷害（病気は対象となりません）に対して保険が参加者全員に手配されています。補償（天災Aプラン）の詳細については、下記をご覧ください。

<http://www.tokyo-fk.com/volunteer/document/V1-volunteer2024.pdf>

16. 研究者の紹介

◇主任研究者

松沢慶将：日本ウミガメ協議会会長
四国水族館館長

専門は海洋生物環境学で、特にウミガメ類の繁殖生態について研究。
ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全にも取り組む。

◇主任研究者

石原 孝：NPO法人Turtle Crew理事、日本ウミガメ協議会理事、
IUCN 種の保存委員会Marine Turtle Specialist Group 共同副議長（東アジア担当）
専門は海洋生態学。特にアカウミガメが成熟していく過程を研究している。また、事故死するウミガメを減らすための研究にも取り組む。

◇協働研究者

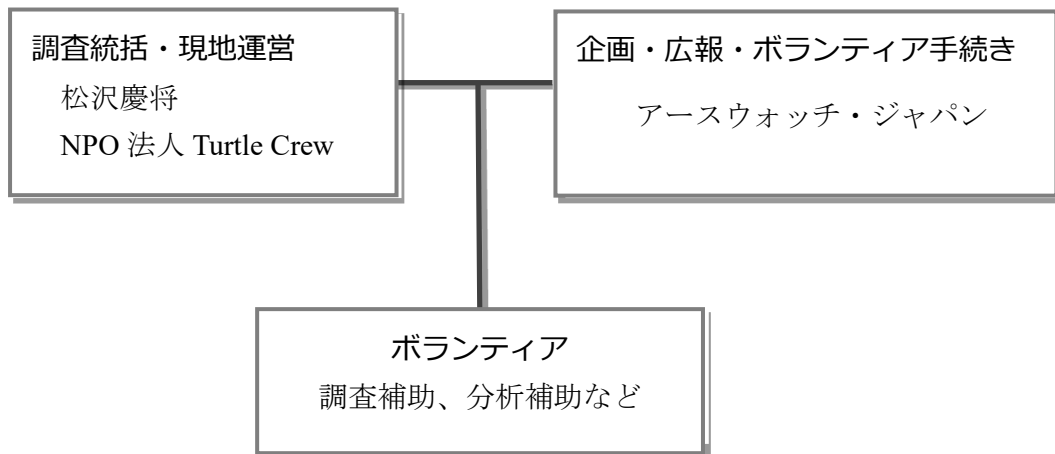
水野康次郎：奄美.asia 代表、奄美海洋生物研究会 副代表、NPO法人Turtle Crew理事、日本ウミガメ協議会監事
専門は文化人類学で、現在では奄美群島を中心に、人とウミガメや海洋動物などの繋がりを研究している。元日本ウミガメ協議会事務局長。

◇協力

久米満晴：NPO法人Turtle Crew理事長
種子島にて漁師と写真家をしながら、混獲されるウミガメや海洋生物を調査。
また海洋体験型の環境教育も実施。

増山涼子：日本ウミガメ協議会理事、NPO法人Turtle Crew理事、西之表市ウミガメ保護監視員
元水族館職員。現在では西之表市のウミガメ調査員として活動。

◇調査の体制◇



17. 参考書籍、文献、用語の説明など

- ① 「ウミガメの自然誌」（亀崎直樹編）東京大学出版会
- ② 「屋久島発 うみがめのなみだ」（大牟田一美・熊澤秀俊）海洋工学研究所出版部
- ③ 「ウミガメは減っているか」紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会
- ④ 日本ウミガメ協議会 HP <http://www.umigame.org/>
- ⑤ 「日本のウミガメ保存の課題と展望」（松沢）
<https://www.ows-npo.org/media/backno/tokushu57forWeb.pdf>

18. ご協力をお願い

アンケートにご協力ください

本調査参加後、アンケートをお送りしますので、ご意見、ご感想を事務局にお寄せください。今後の調査運営の向上に役立てさせていただきます。

お写真をお寄せください

みなさんがボランティア活動中に撮影した写真を、体験したコメントとともにご提供ください。いただいたお写真は、アースウォッチの広報に役立てさせていただきます。

19. 情報の取り扱いについて

- この調査プログラムから得られる経験や知識、写真、動画等は、参加者の家族や友人、ローカルメディア等で共有することはできます。(もちろん肖像権などには十分なお配慮をお願いします)
- しかし、調査の間に収集・共有された全ての情報、特に科学的データやレクチャー時に研究者が使用したスライドなどは、研究者の知的財産となることをご理解ください。
- 論文への使用や自らの利益、第三者の学問やビジネスへの使用のために、主任研究者の許可なしに、これらの情報を盗用・公開することを禁止します。
特に調査現地の人たちに取材したデータや、フィールドで収集した科学的なデータは、主任研究者の知的財産となることを理解し、その扱いには厳重に注意をしてください。
- 主任研究者は、科学的なデータや特定の研究に関連した情報を共有することに対して制限を加える権利を持っています。もし参加者が学術上有益なデータやその関連情報を使用・公開する場合は、必ず書面で許可を得るか、アースウォッチを通して主任研究者に確認してください。
- 希少生物の捕獲を防止するために、撮影した写真を公開する場合にはGPSによる位置情報を削除するほか、撮影場所が分かるような情報は公開しないなどのご配慮をお願いします。
- アースウォッチは、調査プログラムに関連して撮影した写真及び提供いただいた写真の利用についての権限を有しています。

※これは、調査プログラム解説書のweb版です。

参加者には、緊急連絡先やスケジュール詳細が記載された解説書を別途送付致します。

アースウォッチ・ジャパン事務局

アースウォッチ・ジャパンの活動は、

国連のSDGs「世界を変えるための17の目標」のうち、以下の項目達成に寄与します。



30by30の実現に向け、国内調査プログラムを通じて、生物多様性の保全や教育を支援していきます。



この調査は、三菱重工業株式会社のご支援を受けて実施されます。